

## 令和3年度 第5回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和3年11月29日（月） 午後6時～午後8時10分  
開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム  
委 員：藤野（会長）、木ノ下（副会長）、大嶋、辰巳、大内、大久保、鈴木、  
高安、中尾、野村、萩原、羽月、細合、宮本 ※敬称略  
事務局：新堂、湊、川添、出水、時田、川下（文化・スポーツ振興課）  
後藤、松田（関連部局）  
北芝、中神（文化振興事業団）  
江藤、飯塚（地域計画建築研究所）  
傍 聴 者：1名

### 1. 開会

事務局より欠席者等の説明、配布資料の確認。  
会長より開催挨拶。会議の成立報告。

### 2. 審議

#### （1）（仮称）八尾市芸術文化推進基本計画について

- 事務局○最初に報告したい。先日の会議で提示した、条例や計画で使用している「芸術文化による創造及び交流の基盤」を、計画で親しみやすくするために提案していた「やおクリエイティブコモンズ」という名称について、委員の中にも文化芸術に携わる方が多いため、ご存知の方もおられるかもしれない。一般用語として、「クリエイティブ・コモンズ」という言葉があり、20年ほど前に、アメリカ合衆国で設立した非営利団体の名称で、現在では、デザインなど作者の意志を反映しながら作品の流通を図るための活動全般と、活動する団体を指す言葉になっている。日本にもクリエイティブ・コモンズ・ジャパンという支部のようなものがあり、前回会議後すぐに、やおクリエイティブコモンズの名称を使いたいという旨の相談のメールを送っていたが、昨夜、商標登録の関係で使わないでほしいという旨の返事が来てしまった。そのため、本日の資料では「やおクリエイティブコモンズ」に統一して説明するが、この名称については変更したいと考えている。名称については、日程の都合上、恐縮だが会長一任でお願いしたい。もし、本日の時間が取れば議論したいが、一旦そのようにさせてほしい。
- 続いて、資料にはないが、今回の修正に当たっての大きな考え方を説明したい。今回、条例の制定と計画の策定を合わせて行っているが、条例と計画の考え方を合わせ、芸術文化行政を進めていく必要がある。具体的には、条例では「芸術文化による創造及び交流の基盤」、計画では、「やおクリエイティブコモンズ」と名付けているこの芸術文化による創造と交流の基盤の形成を進めることが、条例と計画の大きな共通の想いとなっているため、「創造及び交流の基盤」を初めてご覧になる市民の方々によりわかりやすくすることを意識して、修正を行った。条例や計画で謳っているこの創造及び交流の基盤とは、一体どういったものなのか、それをどのように作っていくのか、作ることによってどう変わることを期待しているのか、という説明をより詳しく記載し、実際に創造及び交流の基盤を形成・発展させるために設置する推進会議の役割と、この芸術文化振興審議会の役割の違いをわかりやすくするための関係図も加えた。この計画の根幹は、八尾に文化的コモンズの考え方をどのように根付かせるかだと考えている。
- 現在、芸術文化活動に関わっている方、あるいはあまり日常的に芸術文化活動に関わっていない方、八尾市で暮らす様々な人にご覧いただき、市の芸術文化行政の目指す方向性をともに共有できるようにするための計画であることを念頭に置き、修正作業を進めてきた。

事務局より資料1、第4回審議会からの主な変更点について、ビジョンマップの説明。

- 会長○八尾市の条例と基本計画は、他市と比較して、推進体制を具体的に打ち出したことが特徴である。国は地方の文化芸術推進基本計画を策定するように書いているが、実際にどのような推進体制で実施していくのかを、具体的に記述した基本計画はない。ここ3～4年にできた基本計画には目を通してはいるが、推進体制について八尾市ほど記載したものはなく、他は理念的なものにとどまっている。
- 特筆すべきことは、議会が承認すればだが、基本条例では推進体制（推進会議）が第6条に記載され、さらに第8条で審議会の設置が記載されており、このような二重構造になっているものは、恐らく日本で初めてではないか。私が経験した中では、明石市でつくった際は、審議会だけでは第三者的で推進主体がよくわからないこと、また、指定管理者、自前の事業と教育委員会部局の文化政策のベクトルが一致しない問題があったため、審議会とは別に推進会議をつくった経緯がある。しかし、条例の中で推進会議と審議会を置くと謳ったものは、先駆的で日本で初めてだ。
- その条例に基づき推進基本計画がつけられているが、第2章のタイトルで「推進」という言葉が使われている。また、第2章の3.で「計画の推進に向けて」というタイトルがあり、さらにクリエイティブコモンズ（名称変更する必要があるが）が記載されている。やる気や決意が見られる条例、計画となっている。前回も様々な意見があり、特にお金はあるのか、という意見があった。通常、計画を策定する以上、財政措置を図るものだが、それはこれからの交渉だ。この計画を策定したのだから、予算措置を図るように交渉するしかない。条例によっては、基金の設立や財政措置を含めるところもあるが、なかなか保証することは難しいため、財政措置を入れないところも多い。皆さんの創意工夫で、良い方向に向かうよう願っている。
- P22 にアート・リテラシーの記載があり、「作法を学ぶ機会を創出する」とある。作法というのは一般的にマナーであり、リテラシーとは異なるのではないか。リテラシーは読み解く力のことであり、作品の見方、聞き方であり、従来の見方、聞き方とは異なるものを各自が習得することと理解しているが、この内容では、昔からの躰、鑑賞教室のような上から目線になっており、今の時代に合っていないのではないか。例えば親子コンサートは騒いで良いというところから始まるが、中学生になって大人向けのものを聴く場合は、騒がないように徐々に習得できるようにするなど、「スロープ」をつくるのが大切だ。頭ごなしに命令すると、子どもは反発して逆効果になる。作法という言葉は検討が必要だ。私が考えるアート・リテラシーは異なる。
- A 委員○P14 のやおクリエイティブコモンズの図は、12・13 ページの前に置いたほうが良いのではないか。図のタイトル上に「芸術文化による創造及び交流の基盤」も記載して、移動してはどうか。
- 事務局○わかりやすくなるのではないかと考え移動したが、人によって受け取り方は異なるだろう。本日の議論の中でそのような意見が多いようであれば、修正も検討する。
- A 委員○P22 の「アート・リテラシー」については、私もコンサートをするときに、子どもたちから自然に出た声を、演奏の中の音のひとつと捉えて表現することもあり、違和感がある。
- 事務局○奇譚のないご意見をいただき、最終的に集約し対応する。
- A 委員○P25 の「生きづらさを抱えた人」の後の括弧の中の表現については、今の時代、難しい文言なのではないか。
- 事務局○内部でも苦慮して工夫した文言のつもりだが、一般的に見て引っかかるということであれば工夫したい。もし対案で良い意見があればお願いしたい。
- B 委員○P22 の「アート・リテラシー」については、異なる表現のほうが適切ではないか。また、P25 の「生きづらさを抱えた人」も難しいとは思いますが、もう少し広くまとめた言い方があるのではないか。
- 事務局○社会課題の解消という部分で、表現のハードルが高いが、しっかり考えたい。
- C 委員○ビジョンマップについて、八尾アートフェスティバルのチラシのような絵に見える。これまでの意見では、日常的に八尾市内に芸術文化があふれているという話ではなかったか。この絵では、フェスティバルが開催されている中で、様々な芸術文化があるように見える。せっかく普段からあふれていたら楽しいという話をしていたが、それが勿体ないのではないか。
- 会長○よく見ると、日常的にあふれているとは書かれているが、ゲートが目立ち過ぎなのではないか。

- 事務局○イラストレーターに指示した内容としては、YAF の幟をシンボルとして、アートフェスティバルが1箇所での取り組みではなく、拠点同士が協力して複数箇所で行われているように見せたいとお願いした。ただ、全てのポイントで幟が立っていることで、アートフェスティバルが行われている日のように見えてしまうようだ。この日は広域イベントのアートフェスティバルもやっているが、日常的にも芸術文化活動が市内各所で行われている、という見せ方に修正したい。
- 会長○飛行場と工業地帯のところが寂しい。これも産業文化等の文化資源であり、ここも何か見えるようにしないと、ここには芸術文化がないように見える。
- 事務局○芸術文化に関するものをピンク色で表現しているが、ご指摘のようにこのあたりにはない。案として考えていたのは、自衛隊が花火を打ち上げており、それも芸術文化に含めることを検討している。他にも産業と芸術文化の融合の視点からも、何か表現できないかイラストレーターと話したい。
- D 委員○ビジョンマップで幟が街中にあふれているのは良いと思うが、プリズムホールで大きなイベントをする際に、駅からの目抜き通りになっているペントモール八尾にフラッグを付けてほしいと依頼したが、道やフラッグを付けるところ毎に管轄が異なり、役所の方もとても協力してくれたが、1週間付けるための費用も手間も大変だった。先週、愛知県のある市に出張したが、大きな目抜き通りに昨年なかったフラッグが今年付いており、文化のまちのイメージを高めるために汎用的なデザインの旗を付けていた。付けたときの大変さについて尋ねたところ、市が持っている街灯に「アーム」というフラッグを固定する部位を追加されたとのこと。そのアーム 26 本の取り付けに百数十万円がかかったとのこと。
- P12 の「形成主体の獲得」の「獲得」という文言はおかしいと感じる。獲得よりも、形成主体や参加団体の拡充、増加の促進のほうが良いのではないか。リード文と表の中の2か所にある。
  - P14 の文化会館の担う役割の記載の中に、「牽引する中心的な役割」とあるが、「牽引」の使用に違和感がある。それぞれのコモنزがネットワークで協力し、拠点としてのハブ機能は市や文化会館かもしれないが、「牽引」は違うのではないか。形成を牽引するのではなく、形成のハブ的、または中心的な役割を担うとしてほしい。
  - P22 の「リテラシー」については、子どもたちの育成のために文化会館が行う事業の内容となっているが、リテラシーは「読み説く力」という意味である。結果としては作法を獲得していくが、作法獲得のためには実施していない。反対に演劇公演の場合は、少々騒いでも注意しないように先生方にはお願いしてきた。劇場の体験を、叱られたという経験ではなく、ワクワクした経験とするためにつくっているため、そこにずれを感じる。また、クラシックの音楽を低学年の子どもと親と一緒に聴いていただく「うたって！おどって！楽しいね！」という公演があるが、その名のとおり、歌っても踊っても良い。そのようなスタンスで取り組んできたため、この文言の表現を修正してもらいたい。
  - P25 の社会包摂の「生きづらさを抱えた人」については、文化会館が提出している事業計画の対象が、療養中の方や障がい者の方、不登校の方といった個別事業の形で書いているため、それを参考にしてもらったのかもしれない。具体的な事業ではない取り組みのため、もう少し汎用的な表現が良い。
  - 取り組みイメージの役割分担については、文化会館、市、コモنزの担当が明確になってわかりやすくなって良かった。
- 事務局○P12 の「獲得」という表現については修正したい。P14 の「牽引する」についても、形成のハブ的、または中心的な役割に修正したい。
- P22 の「アート・リテラシー」については、様々な意見をいただいた。小学校の高学年を対象とした無料公演の中でも、作法という文言には語弊があるため、鑑賞の仕方等でお話いただく機会があるなら、どのような表現が適切なのか相談したい。または、アート・リテラシーについては別枠の取り組みにしたほうがよいのか、文化会館と相談させてほしい。
  - P24 の「生きづらさを抱えた人」については、言われたとおりで。文化会館管轄の箇所であり、記載方法を相談したい。
- 会長○P12 の「獲得」については、上から目線というのはそのとおりで。もっとコンパクトに、「コモنزの主体形成に取り組む」でいいのではないか。P14 も「有機的なネットワーク形成の中心的な役割」としてはどうか。コンパクトな文章が良い。P22 の「アート・リテラシー」については、参考資料を送る。
- E 委員○独り言として話すと、P29 の幹事会には私が所属する FM ちゃおも入っているが、コモنزが取り組むことの多さ、種類もそうだが、本当に幹事会でできるのか、コモنزにはかなりのコーディネート能力が必要ではないか。絵に描いた餅になっていないか。予算もないコモنزの役割が大きいと感じている。怖気づいてい

事務局○るわけではないが、本当にコモンズの推進ができるのか、不安を感じている。記載の取り組みイメージについては、その不安を払拭させていただきたいと考え、P12の点線の枠囲みを書かせていただいた。取り組みの多くが㊤となっているが、1からすべて作り上げなければならないわけではなく、現在、様々な拠点や団体で取り組んでいることがあると考えており、コモンズのマークを記載している。また、現在ないものについては、全てに取り組まなければならないという考え方ではない。リード文や各項目で、どのようなものを目指しているのかを説明している。手法のイメージとして、主な取り組みイメージを記載しているが、より良い表現があれば検討したい。

○P28にリーディングプロジェクトを記載している。市は先の予算を獲得することが難しいが、最低限、これだけは実施したいと記載しているのがリーディングプロジェクトである。主な取り組みとして3項目を記載しているが、少なくともこれは予算折衝をし、市として実現できるようにしたい。何もかもコモンズの幹事会で賄える訳ではないことは承知している。幹事会でどのような方向性で進めていくかを検討し、P29の右下の全体会の説明では、全体会では様々な主体に参加いただき、「互いに理解を深め交流することを通じて、新しい活動や取り組みを提案し合えるサロンのような場づくり」を行い、交流を深める中で、新しい取り組みをやってみようかという話ができ、自走的に進むと良い。また、「市内の芸術文化活動を行っている団体や拠点を巻き込んだワークショップの開催」と記載しているが、すでに何らかの活動を行っておられる団体や拠点に、さらに賛同する人が集まり、既存のものを大きく盛り上げることもできると考えている。そして、「専門部会を立ち上げて事業の実施」についても、賛同者が集まり新しい目標と一緒に取り組むような活動が、推進会議の中で行われていけば良い。何もかもすべてを幹事会でコーディネートするようなものは、長くは続かない。そのような機運を高めることが、推進会議を設置する意義だと考えている。

会長○コーディネーターの育成にしても、ボランティアなのか、専門職としてのコーディネーターが必要なのかが不明である。地域おこし協力隊も中核市にはいないのか。私がいる豊岡市は、地域おこし協力隊だけでも30名程度おり、コーディネーターとして演劇祭などを支援している。他市でも専門性の高い方が雇用されて芸術祭を応援しているが、八尾でもそのような姿が見られるのか。

事務局○八尾にもコーディネーター的な役割をされている方は多いだろう。そこにアートという専門性を兼ね備えることを考えると、芸術文化活動をされている方々の協力も得て、時には一緒に成長していきながら、コーディネーターが多数いる八尾にしていきたい。

会長○前のめりな発言だ。

F委員○取り組みイメージについては、主体を記載いただいたので考えておられることがわかって良かった。自主的に実施する場合は予算が心配だ。皆で予算を獲得できると良い。

○コーディネーターの育成・確保についてもコモンズで育成すると記載されているが、それぞれが企画されていることだけでも手一杯な状況で、そこでコーディネーターの育成までするのは大変だ。できれば市や文化会館と強く手をつなぎ、育成できると良い。

○ビジョンマップについては、自分の住んでいる地域がわかるため素晴らしいと思う。ただ、八尾空港のあたりが真っ白なのが残念であり、プリズムホールやお寺など、実際に動いているところがピンク色になっているが、日本家屋や小さな家、ビル、工場なども点々とピンク色にして、7年後にはそういう場所でもアートプロジェクトや演劇、音楽等が行われていることがわかると、自分の地域にもピンク色があり、そこにフラッグがあれば、工場の中でもアートイベントがあるイメージできる。

事務局○ビジョンマップについては、いいアドバイスをいただけた。イメージを描こうとして1つ1つにスペースを取っているが、全ての中が見えなくてもピンク色が芸術文化なのだと見ている方がわかれば、中の絵がなくてもわかるようにしたい。

会長○コーディネーターについてはどうか。P13ではコーディネーターの育成・確保だけでなく、プロジェクトの伴走支援まで入っているが、伴走支援には専門性が必要であり、ほぼプロに近い。全国のアーツカウンシルで伴走支援に取り組んでいるが、中核市ではこのような自治体はまだない。都道府県や政令市が中心だが、八尾市ではアーツカウンシルに匹敵するくらい、前のめりな内容になっている。コーディネーターの育成はもう少し考えたほうが良いのではないかと。

事務局○P12～13の取り組みについては、主体をすべてコモンズとしているが、「コモンズ形成主体が自主的に実施を予定する、または、コモンズ推進会議で実施検討する予定の事業」と記載しており、イメージとしては、推進会議、ここには市職員

も入って取り組むものであり、ここで実施検討したい。コーディネーターの育成・確保は、基本的にはそのような活動をするために団体が存在している訳ではない。そういうところについては、全体会議等でコーディネートノウハウの研修会を開催することなどを考えていた。余力のある方やノウハウのある方が、自主的に取り組んでいただく手法もあるが、推進会議があることで勉強会、研修会を行う素地になると良い。

- G 委員 ○ ビジョンマップについて、八尾空港や JR の線路、プリズムホールもあるが、この地図にどれだけ反映されているのか。南側を中心に書かれているが、北側も入れて欲しい。
- これを実施しようと思うと、人的財源も金銭的財源も必要なので心配だ。
  - 1 つの条例をつくるためには、法規などを立体的につくっていかなければならない。法務担当と相談をしているということで安心した。
  - P25 の「生きづらさ」については、私も気になっている。コロナ禍で外出しづらい人も生きづらさは抱えている。表現の仕方が差別的になってはいけないため、慎重に記載してほしい。
  - P25 の主な取り組みイメージについて、野遊祭が直前で中止になって残念だが、日本に来られている方の文化をこちらにも知る必要がある。個人的には、孫が上海にいて、スイミングスクールやクラシックバレエの教室にいつているが、中国語で教わっており、日本語での教育を受けていないことを懸念している。現地で日本のグループが、夏祭りや節句などの日本の文化を教えてくれているのだろうか考える。八尾にはベトナムの方も多いが、ベトナム文化など自分たちの文化を紹介し、交流することも大切だ。
  - P29 の幹事会の中に、つどいの運営管理者の名前があるが、市民活動ネットワークセンターには様々な文化活動を行っている方が多数いる。八尾芸能倶楽部（八尾まつり家会）という芸能集団があり、河内音頭や三味線、ギター、落語など様々な活動をしている。そのような方々も増えていけばいい。P27 の魅力発信で、「観光協会や FM ちゃおとの連携」とあるが、市民活動ネットワークセンターも入れてほしい。
- 事務局 ○ つどいは入れたい。表現についても確認して修正する。
- ビジョンマップの北側については、八尾の特徴的なもので表現できないか、イラストレーターと検討する。
- 会 長 ○ 国際交流と言っても内なる国際化とインバウンドなどいろいろあるが、その辺りが少なく感じる。2019 年にドイツから合唱団を呼んで、一緒に国内ツアーを行い、東北の被災地を回った。東北地方は芸能の宝庫で、鹿踊や北上川の鯉のぼりなど、予期せぬ出会いがあり、みんな目を輝かせていた。そのような出会いは大切であり、意図的に行っていないなくても、あちこちで伝統文化は根付いている。日本の伝統文化の観点も大切だ。
- H 委員 ○ 客観的に第 2 章を読んで感じたのは、河内木綿と河内音頭という言葉が多い。それが悪いわけではないが、P15 に河内木綿や河内音頭があり、P24 に河内木綿、P26 に河内音頭がある。八尾の芸術文化は他にもあると思うが、これが可能性を狭めているのではないか。新しい風が入ってくるところを狭めているのではないかと感じる。八尾にもそこまで興味がない方もおられるかもしれない、他府県の方も、それがメインのイベントだったら行かない方もいるかもしれない。他に八尾発信の新しいイベントや、アーティストに注目が集まるようなものができればいいのではないか。
- P25 の「生きづらさ」については、生きづらさは感じることであり、人それぞれにあるものだ。地域・社会課題の解消や生きづらさというのは、お荷物的に受け取れてしまう。様々な方が芸術文化に触れることで心豊かになってほしいが、課題解決型ワークショップと一緒にしようとするため、このような表現になってしまうかもしれない。感じ方は人それぞれで異なり、生きづらさは誰にでもあるだろう。芸術文化に触れやすくなるように、もっと窓口を広げ、結果としてストレスが解消できている、というような、ゆったりしたもので良いだろう。
- 事務局 ○ P25 については、皆さんの意見のとおりだ。そのあたりについてはデリケートな部分でもあり、ご指摘いただいた貴重な意見を活かし、表現を検討したい。
- 河内木綿と河内音頭の記載が多い点については、意識していなかったがご指摘のとおりだ。八尾といえばという決り文句で出てくるものだが、改めて見直し、減らすことが今の段階でできるかどうかわからないが検討したい。河内音頭や河内木綿以外の八尾らしい芸術文化については、P27 の主な取り組みイメージで、「新しい八尾の芸術文化の発信」を記載しており、ここが該当すると考える。「積極的な発信を行うことで、新興芸術文化のアーティストが創作活動のために集まりやすいまちとしていきます」とあるが、今でも八尾にどんな文化があるか

聞くと、幅広に意見をいただけるだろう。そこからひとつだけ書いて、他を書かないとなると、また異論が出るため、このような表現とした。

H委員○ひとつを選ぶことは難しいかもしれないが、こんなものもあるのかということが知りたいのではないか。何か例があれば、別のものと結びついて、また違うものが発展するかもしれないため、他府県とのイベント等にも広がるかもしれない。もっといろんなものを発信すべきだ。

会長○ここの「新興芸術文化」の文言は再検討してほしい。事例も入れられないか。

事務局○表現や事例は検討したい。

I委員○ビジョンマップについては、八尾アートフェスティバルが目立ち過ぎるということだが、呼称は決定なのか。アートフェスティバルよりコモンズフェスティバルやコモンズフェスタのほうが全体をイメージできるので良い。YAFの幟もやおCF、コモンズフェスと書いてはどうか。

○また、中心部は記載されているが、山の麓のあたりが寂しい。お寺はイメージできるが、神社の鳥居や布団太鼓、お神輿、高安能などを山の麓に入れてもらえると、近隣の方も注目してくれていると感じるだろう。

○P24に「商店街アートフェスティバル」との記載があるが、これも呼称が決定しているように見えるため、「商店街におけるアートフェスティバルの開催」としたほうが良い。

○今日は派手なネクタイをしているが、東北で知的障がい者のデザインを活用しているヘラルポニーのネクタイだ。産業と障がい者のアートとのコラボレーションはこのような表現になるが、空港の周辺の工場や会社で産業とのコラボがイメージできるような絵があると良い。

○平成27年にのれんのまちづくりをしていたと思うが、図書館等も河内木綿ののれんをかけていた。ビジョンマップの中のたなびかせているものが河内木綿なのかもしれないが、のれんなら各家庭でも掛けることができ、家の前にのれんが掛かっているイメージがあれば、市民みんなでコモンズを盛り上げる意識に繋がるのではないか。文章で細かいことを表現するよりも、絵の方が目に入りやすい。それぞれの地域でみんなが参加できるイメージが表現されると良い。

事務局○呼称やビジョンマップについては検討したい。

J委員○P25の「生きづらさを抱えた人」の表現については、「生きづらさを感じている人」のほうが柔らかく、その後ろに括弧で例示を入れる際は、例えばコロナで気が滅入っている人も対象にするなど、障害がなくても生きづらさを感じている人はおり、前向きな表現になるだろう。「生きづらさを感じている人が心安らぐワークショップの開催」でいいのではないか。

○主な取り組みイメージについては、主体がわかりやすくなった。コモンズの役割が大きいということはあるが、他の活動団体、例えば八尾にアールブリュットを広める会についても、このような取り組みイメージがわかれば、協力が欲しい時にどこに声をかければ良いかという参考になる。やりたい時に、ここの推進会議に声をかけると協力してもらえないとわかる。協力者が現れることを願って、取り組みイメージをできるだけ多く記載しても良いのではないか。

○ディレクターやコーディネーターは、パワーがあるしっかりした人をお願いしたい。そのような方がいることで、企画がきれいにまとまり、伝えやすくなる。八尾にアールブリュットを広める会も素人の集まりだったが、1年目はアールブリュットが盛んな滋賀からディレクターに来ていただき、その方に指導していただいた。2年目に依頼したときには、その方に頼らなくてもできるように、チェックして気になるところについて助言だけいただき、基本的には会のメンバーだけで運営し、3年目には自走できるように指導を受けた。ディレクターをひとり確保するのは難しいが、ディレクションができるチームができるようにノウハウを学ぶ機会があることで、ハードルが下がるのではないか。まだ小さな活動、小さな団体だが、アート展覧会も実施しているため、成功したモデルケースと言える。何かお役に立てればと考えている。

○ビジョンマップについては、すごくきれいでまとまっているが、この段階から会議で出た意見を追加していくと、複雑になるのではないか。また、ワントーン過ぎるため、白黒で見るとピンクも緑も同じに見える。トーンを変えることで、わかりやすくなる。弱視の人は緑と赤は見分けもつきにくい。ユニバーサルデザインを意識して、トーンを変え、線を太くするなど見易くなる。この絵では人が集まっていることはわかるが、何をしているのかは近くで見なければわからない。例えば、踊っている人や演奏をしている人だけでも大きくするなど、重要なポイントを大きくし、目がいくようにしてはどうか。せっかく素敵なものをつくるのであれば、見易さも考慮してほしい。

事務局○イラストレーターと相談する。

- K委員○これだけの膨大な資料を作成した努力に感謝したいが、コモنزを形成するための努力はこの程度のものではないはずだ。牽引という言葉について意見があったが、実際は誰かが牽引しなければ進まないのではないか。恐らく文化振興事業団に牽引を依頼することになるのではないか。P29の推進に向けてのところで、幹事会は年4回程度開催との記載があるが、規模の記載がない。コモنزの図に記載されている団体から1名ずつ出すだけでも半端ではない人数になる。商店街や店舗、企業もあり、誰が代表して参加するかも見えてこない。コモنزがこのような形でできれば良いが、年4回で7年後にこのようなことができる組織ができるのか。
- 私は第1回中之島まつり実行委員会に参加していた。後援企業もなく、70名程度のイベント参加者が集まり、主催者もわからないが、前に座っていた3人程度の方が身銭を切ってボランティアでその会をまとめ上げていたと思う。みんなの意見を最後に書類にまとめてくれたが、そのときの雰囲気はコモنزに似ている。学校の先生など、公演や御堂筋パレードに参加する人まで、行政も企業も入っていたが、まとめ上げるには中心的な人物が必要だろう。西宮は佐渡裕さんが文化活動を牽引したため、全体の形が出来上がった。彼はクラシックの指揮者だが、作っていく中で吹奏楽の力や広さに気がついた。関わっている内に練習場の不足も見抜き、芸術文化センターには個人練習室のような部屋を多数整備した。具体的に困っていることを提案して、具体的に実現していくためには、牽引していく人が重要だ。組織化する上で何名くらいの会議を想定しているのか、会議を初めて何をするのか、幹事会は何をするのか。構成の雰囲気はわかったが、イベントを提案していくのか、活動を支援していくのか。コーディネーターの育成まで入っているが、それは無理だろう。誰が誰にということが見えてこないため、ここに書くべきではないか。ここにいる人で誰が中心になれるかを考えると、思いつかない。そこが疑問点だ。
- 実際にこんな相談事があるというとき、誰に相談してどのようにクリエイティブコモنزに広がり、リターンしてくるのか。幹事会の記載内容だけでは難しいのではないか。誰かを専任して、または招聘しなければ実現しないのではないか。この書類をつくるだけでも大変だったと思うが、コモنزの形成はこの比ではない。専門家が専任で、有償で関わるべきではないか。それがこの文章では見えてこない。現在、活動している人もいるというだけでは、このコモنزは出来上がらないだろう。みんな自分の力をほぼ出し切ってつながっているだけであり、それを拡大するのは難しい。幹事になる人、中心的になる人が必要だ。
- 会 長○重い課題を出していただき、簡単には回答できないと思う。
- 事務局○直ぐに回答できないが、現在の資料が今の段階で記載できる内容だ。ノウハウのある方を有償で招聘できれば有効だが、現実的にはそのような予算を工面できない中では、国の補助金が出ることもあると思われ、選択肢も増えるだろう。何もかも思い描くようには進められないだろうが、今、自分たちにできることに取り組んでいきたい。
- 会 長○審議会は条例に設置規定があるが、推進会議はなかったか。
- 事務局○推進会議も条例に設置規定があるが、今後、市で細則や要項を定めていくことになる。
- 会 長○条例で設置すると規定しており、やらなければならない。宿題だ。
- L委員○イメージ写真という箇所があるが、楽しい内容であり、画像や写真も楽しいもの、市民が投稿されるような、広報にインスタの画像などもあると思うので、そのような画像を使っていたきたい。
- 計画期間が7年間とあるが、そのくらいかかるものなのか。7年間、情熱を持ってやり続けることは難しい。もう少し3～4年の中期的なものにして、当事者意識を持って取り組めると良い。
- 会 長○日本の行政はジェネラリストであり、異動が3年ほどであり、計画策定後に中心人物がいなくなることは多い。するとそれまでの情熱がロスになってしまう。日本社会がなぜこれだけ年収が上がらず、活力がないかと言うと、私は異動にあると考えている。専門職が育たないことに大きなロスがあるだろう。今のご意見について、誰が責任を持って見届けるのか。事務局サイドはどのように考えているのか。
- 事務局○私どもは必ず異動がある。しがみつこうとしても引き剥がされてしまうため、十分ではないが、しっかり引き継ぎを行う以外にない。また、我々がパートナーとして依頼している文化会館の指定管理者に、何もかも押し付けるつもりはないが、限られた時間の中で、事務的な引き継ぎを行わなければならない、市職員によっては熱意やノウハウを引き継げるかどうか難しく、課題と考えている。しかし、できることを精一杯やる以外にはない。

- 副会長○皆さんで議論をした上でのこの計画だが、そもそも具体的に書き込むことが良いことなのかという疑問はある。誰がやるか、主体的に書かれているようだが当て込みになっている。事務局としての視点なのか、審議会でオーソライズしたものなのか。無責任になってしまわないか気になる。予算措置や事務局体制、コモنزを構成する規模感等があまり議論されないままで具体化されている不安感が否めない。推進事業のため、行政が書くには絵に描いた餅に見える。
- 言葉の選び方についても、施設を利用する人とあるが、誰の目線で書いているのか、わかりづらいところがいくつかあるが、具体的な取り組みイメージを記載しているために、余計に推進会議に不安感を持ってしまう。
- 今は詳細に書いているが、「生きづらさ」などの文言も整理されていないために、皆さんも不安を感じられるのではないかと。変に「生きづらさ」というバズワードを書くよりも、社会包摂として社会的に弱い立場にある人々と書けばいいのではないかと。行政としては、すでに使われている言葉を使用すべきだ。
- 計画書には細かく書いているが、ビジョンマップはざっくりして矛盾を感じる。神社や高安能、古墳などの具体案が描かれていない。もう少し地に足がついた内容にしなければ、絵に描いた餅になるだろう。
- 会 長○少し前のめりかもしれないが、ここまで推進計画としてやる気を見せた心意気は評価したい。普通はぼやけたものをつくり、結局、何もやらずに終わる。正直に言えば、100%を記載していると考えた場合、3割できれば三重丸だと思っている。これだけのメニューを出しておき、この中から年次予算を獲得できたものから取り組むことになるだろう。リーディングプロジェクトだけは中核として取り組むこととし、皆でイメージをしっかりと持っておくことで、進められそうな時に一気にやるというやり方になるだろう。
- 事務局体制や予算にしても、まずは気概を見せることが八尾の心意気であり、前のめりである計画の面白さだろう。摂津市の計画では、理念的なことは多数盛り込んだが、やる気があるのかわからない内容になった。今は足を引っ張らずにこの機運を盛り上げて、集まれる方から集まってやっていく、という心意気でやるのが、元気のない日本にとって良いのではないかと。
- 多数のご意見をいただいた。スケジュールの関係で申し訳ないが、修正文言については私と事務局に一任としてほしい。修正後、私から市長に計画の答申を行う。
- D委員○本質的な課題も出たため、時間的制約のため一任とさせていただくが、課題については整理し、解決案も検討していただき、実行可能な計画としていただきたい。文化会館としても、すべての実施は難しい。現在、文化会館の担当と示された項目は指定管理業務としても取り組むが、コモنز担当と記載している項目について、頼りにしてもらっていることはありがたく協力はするが、すべてを実行することは難しいため検討してほしい。
- 会 長○課題の整理・検討も含めて預かる。

### 3. その他

- 事務局○スケジュールの関係もあり、本日が今年度最終の審議会となっている。12月に答申とパブリックコメントを実施予定で、会長と相談しながら進める。
- 会 長○12月の答申が遅れると問題があるか。
- 事務局○パブリックコメントは市政だよりに掲載を予定しており、原稿の締切もあり、この日程で進めたい。
- 本日の会議の内容については、ホームページへの掲載を予定している。掲載にあたり、各委員へ内容の確認を行う。会議内容を要約したものを各委員へ送付する。ご確認いただき、修正等については事務局へ連絡してほしい。遅くなり申し訳ないが、第3回、第4回についても、ご確認をいただき、修正等があれば事務局へ連絡してほしい。

### 4. 閉会

- 部 長○多数のご意見と課題もご指摘いただいた。実はこの会議の前に産業振興会議があり、そちらでも地域コミュニティの重要性が議論されていた。コモنزもコミュニティとの連携、芸術文化活動をされている方と行政とのつながりが重要だと感じており、コモنزには当然、市も入っている。ただ、経験上、市が入るとどうしても行政が主導することになってしまう。芸術文化のコモنزに関しては、やはり市民の皆様と同じ立場で行政はやっていくべきだと考えている。ご協力をお願いしたい。審議会については、次年度も引き続きよろしくお願いしたい。

(以上)